

トマト灰色かび病の発生が増えています！

1月上中旬の巡回調査におけるトマト灰色かび病の発生は、ほ場率が25%（平年値14.7%）で、平年よりやや多い状況となっており（図）、葉先や花弁等（写真）での発生が見られています。県内では近年、多発生が続いており、現在発生が少ないほ場でも、今後の気象条件によっては、発生が急増することが懸念されます。

本病は、多発すると防除が困難となるため、予防と初期防除を心がけましょう。

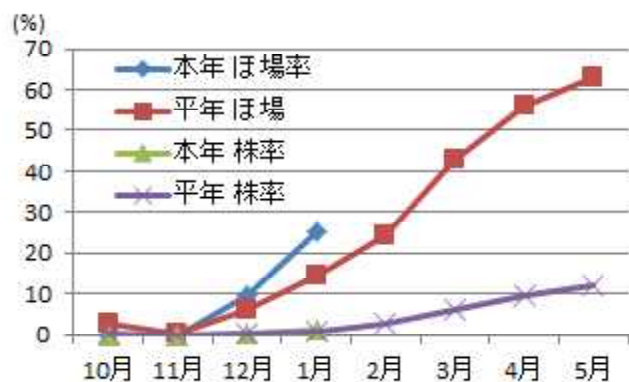


写真 葉先・花弁に発生した灰色かび病

【防除対策】

- ・施設内が多湿にならないよう、換気やかん水に注意する。
- ・暖房機や循環扇の利用により、植物体表面への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
- ・発病葉、発病果、花弁、葉先枯れ等はすみやかに除去し、ほ場外で処分する。
- ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期の利用とする。また、低温条件では効果が出にくいので、温度管理に注意する。
- ・曇雨天時は液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用すると過湿防止に有効である。
- ・薬剤散布は予防主体に行い、化学農薬を使用する際には、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、ローテーション散布を心がける。

表 トマト灰色かび病に登録のある主な薬剤（平成25年1月16日現在）

薬剤名	希釈倍数・使用方法等	使用時期／使用回数
サンヨール	500倍	収穫前日まで／4回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	収穫前日まで／4回以内
ポリオキシシンAL水溶剤	5,000倍	収穫前日まで／3回以内
カンタスドライフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで／3回以内
セイビアーフロアブル20	1,000～1,500倍	収穫前日まで／3回以内
ベルコートフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／3回以内
ロブラールくん煙剤	*1	収穫前日まで／3回以内
ボトキラー水和剤	ダクト内投入:10～15g/10a/日	発病前～発病初期／－

*1 くん煙室容積300～400m³（高さ2m、床面積150～200m²）当り100g（50g×2個）

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。
また、当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012